

2020 年度実施概要

学校名

大牟田市みなと小学校

採択活動名

有明海や三池港を生かした大牟田海洋教育プロジェクト

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

| 単元名 | 学年 | 教科 |
|-----------------|------|------|
| 1. 有明海の生き物を知ろう | 第3学年 | 海の時間 |
| 2. 三池港の環境を守ろう | 第4学年 | 海の時間 |
| 3. 三池港ってどんなところ？ | 第5学年 | 海の時間 |
| 4. 有明海とともに生きる | 第6学年 | 海の時間 |

取り組みの概要

第3・4・5・6学年の総合的な学習の時間を中心に、本校の校区にある世界文化遺産「三池港」や「有明海」についての学習をよりよく展開し、有明海の豊かな自然や文化への学びを深めることで、海に対する豊かな感受性や関心等を高め、地域や国際的な課題を意欲的に解決できる子どもを育てることをねらいとして取り組んだ。

<第3学年>

有明海の干潟に実際に行き、干潟に生きる珍しい生き物を観察したことで、干潟の楽しさや環境を守ることの大切さを実感することができた。水中の生き物にはそれぞれに適した環境があることを理解し、オンラインによる合同学習で他校の児童に広く紹介することができた。今後は、どのようにしたらこの干潟を守っていくことができるのか、環境の問題にまで視野を広げていくことができるようにしたい。

<第4学年>

身近にある世界文化遺産「三池港」や「有明海」を教材として学習を進めていった。海が浮遊ゴミのたまり場となっていることを理解し、ゴミ拾いを通して、その景観や環境をこれからも守っていかなければならないという意識の高まりが見られた。環境保護について地域に呼びかける姿が見られた。地球規模の環境問題についてどこまで児童に学ばせるか、見通しをもった授業を展開することが課題である。

<第5学年>

海は人間生活に密接に関わっていることを理解し、世界文化遺産としての価値以外にも、物流拠点としての世界や他地域とのつながりや市民の憩いの場としての価値など、より広い視野で三池港の価値を見出させることができた。特に7月豪雨の被災の経験を踏まえ、海洋の温暖化に起因する問題に着目し、命を守る減災教育にも取り組んだ。

<第6学年>

これまでの学習を生かし、海と共生するために自分たちにできることを考え、市内及び九州地区の海洋教育推進校と交流を持つことで、課題解決のための意見交換や情報収集を行うことができた。節電や地域清掃活動に取り組んだり、学びを生かしてゲームを作ったり、啓発動画を撮影したり、学習したことを発信するために、目的と方法を考えて行動することができた。

